

11月30日 開会
定例市議会

安全な暮らし、「コロナ」から命・健康を守る医療を 開発・まちづくりは市民主体で

日本共産党

取手定例市議会(11月30日～12月14日)は、コロナ感染が減少、県の指標がステージ1でも、前回同様に議案説明は事前にオンラインで行い、議会初日の説明は無く審議に入ります。

共産党市議団は、議会基本条例・会議規則に則った議会運営にあらためよう求めています。一般質問は、1年半ぶりに時間短縮はなく1時間の市長との論戦を行います。4人の党議員団は、市民の声を市政に届け、政策の提案と改善、市民要望の実現につとめます。



常態化する国保会計の大幅黒字 課税方式の変更機会に税引下げを 小池えつ子 12月1日(水) 6番目質問

◆ 国民健康保険事業の、継続的黒字財政、44億円に上る基金積立の具体的な要因を明らかにすること。

2018年からの都道府県単位化による影響と変化。さらに来年度からの国保課税2方式(所得割・均等割)

の導入について問い、抜本的な国保税引き下げと市独自の減免制度創設を求めます。

◆ 生理用品の無償配布の取組と、投票率向上に向けて法の下の平等を保障する取組が充分に行われているかなど提案質問をします。



“安全な暮らし・環境へ” 藤代の声を届けます。 遠山ちえ子 12月2日(木) 2番目質問

◆ 高須地区は地域公共交通空白地域です。その上、藤代地域の移動(移送)サービスも利用しにくい状況となっていることから市民の移動権を保障するため市の方針を質します。

◆ ごみ回収ではプラ資源を

隔週1回にした検証を行い、生ごみ資源化の徹底を勧めます。

◆ 利根川の樋管管理は地元消防団に依頼していますが、小貝川はこれまでの旧藤代町からの経緯もふまえ、管理体制の一考を求めます。



取手駅西口交通広場 速やかな完成を 加増充子 12月2日(木) 6番目質問

◆ 取手駅西口ペDESTリアンデッキ整備工事(1期)が始まりましたが、駅前広場の整備工事着手の見通しはたっていません。“安全で利用しやすい駅前を”と待たれています。しかし、地権者との合意が進まず、そこにはビル一棟残されたまま。駅前広場

の完成へ地権者の合意を得るための市長の誠実な対応を求めます。

◆ 気候変動が深刻化している下「取手市気候非常事態宣言」を発した取手市の再生可能エネルギー促進等今後の市の取り組みを求めます。

区画整理の補償費膨張

重点施策の取手駅西口前区画整理(市施工)は暫定広場が年度内に終了せず、最後の交通広場もめどが立たず中断補償金は膨らむばかりです。ずさんな駅前整備が市財政を圧迫し、市民生活に係わる生活基盤整備後回しの市長の責任が厳しく問われています。

国保会計は大幅黒字

市民の命と健康に係わる国民健康保険税の課税方式が来年4月に変わります。毎年大幅黒字を続ける取手市の国保会計、積立金は44億円(加入世帯平均27万円)という異常さです。国保税の引き下げや均等割りの減免などの改正、取りすぎた国保税の還元について12月議会で問われます。

命・暮らし最優先へ
国保税引き下げ、ため込んだ基金の活用を

新設交差点に信号機設置決まる

来年4月開通予定の県道守谷藤代線。開通にあたり下高井交差点(現在T字路)に「信号機設置が決まりました」と、11月10日に取手警察から連絡がありました。

地元では、当然信号機が設置されるものと思われていた交差点。3月議会で「信号機設置の予定はない」と市は答えました。交通量の大幅な増加が予想される交差点は小中学生の往来も多く、“子どもが不安に”と皆さんにお知らせし、地域役員の方々に相談・働きかけ、取手警察には繰り返し要望



現在丁字路が守谷方面に来春開通する新設下高井交差点

を行い、加増みつ子市議と竜ヶ崎工事事務所や市にも問い合わせました。

開通後も子どもたちと地域の安全を守り地域から声を上げていきたいと思います。

高洲英子(下高井)



「コロナ」6波への備え、 安全な街、水田の保全を

関戸 勇 12月3日(金) 2番目質問

◆ 第6波のコロナの感染に備え、命と暮らし、営業を守る対策。感染を防ぎ高齢者が集える対策を求めます。

◆ 交通事故を無くし安全の街へ、消えかかった横断歩道

や停止線など道路標示の現状を把握し速やかに改修するよう求めます。

◆ 水田の保全や休耕田にしない対策としてマコモダケの栽培を提案します。

取手市国保

全国に類無し

(加入世帯当り27万円)

ため込んだ基金44億円

議会超党派議員が基金還元を要望 国保運営協議会が承認

市議会常任委員会は市長に対し、2021年度(9月現在)国保会計黒字分16億円の被保険者へ返還(拠出)を超党派で要望しました。審議した11月4日の国民健康保険運営協議会は、市議会常任委員会の要望を承認しました。(現在市は、

拠出方法など検討中としています)

2008年、藤井市長の下で平均30%の国保税値上げが行われて以降、国保会計は、黒字拡大・基金を積み上げ、今年9月時点までに基金44億をため込みました。

"貯め過ぎた基金は戻せ"の声 市長に迫る

日本共産党は、市民とともに、基金の取り崩し・還元、国保税の引き下げを繰り返し求めてきました。

「全国でも類を見ることがない基金残高となった」(議会

常任委員会要望書)と、県内第1位の群を抜く異常な基金積み立てが議会内の共通認識に。市への基金還元要望で一致しました。市長も対応を迫られています。

11月12日
臨時議会

コロナ対策 補正予算2億2,600万円議決

臨時市議会は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の2020年国の第3次補正予算の残額等、国の予算を活用するコロナ対策、3回目のワクチン接種に関する補正予算を議決しました。

感染防止対策の主な項目(ワクチン接種以外のもの)

①市民生活支援 1651万4千円 移動販売車購入の経費を補助。要保護・準要保護世帯支援小中学校の要保護・準要保護認定を受けている児童生徒を支援する。電子書籍貸し出しサービスを拡充など
②経済支援 3533万円 テイクアウト飲食店支援。関鉄が行う安全

対策事業補助。指定管理者施設休業支援など
③感染拡大防止 2698万円 避難所環境整備で指定避難所以外の避難所開設にあたっての消耗品備品購入。保育所・小中学校・公共施設感染症予防対策。教育・保育給付費等クラウドシステム導入など。

9条改憲への危険な新局面

総がかり取手行動実行委員会が講演会

講演：前川喜平元文科省事務次官

12月19日(日)午後2:00開演

取手市立藤代公民館 2階ホール

参加費 500円

自民・公明与党と維新の会の改憲への動きが加速する総選挙後の新しい国会状況の中で、戦争させない・9条壊すな!総がかり取手行動実行委員会は、草の根の運動を広げ9条改憲ストップの新たなステップにと、学習集会への参加を呼び掛けています



駅前広場完成イメージ図(取手市ホームページより)

1993年スタートから28年、土地利用計画などトップダウンの手法で事業は遅れ、6回もの計画見直しを行い、現在完了予定を2023年3月としています。

事業の最終段階を迎えた西口駅前区画整理は、工事中の暫定広場(A街区)供用開始後、駅前交通広場の整備工事完了で終息します。しかし、複雑な地下埋設物撤去などの難工事とともに、ずさんな計画で事業が遅れ、さらに計画の見直しを迫られています。

2023年3月完成は困難に
区画整理・駅前広場

「取手駅西口開発」を問う シリーズ⑬

A街区の暫定広場供用開始遅れ来春に

暫定駅前広場はA街区のすべての建物移転・解体により整備される予定でした。しかし取手市は、地権者との誠実な対応を怠り「地

権者の同意は」との質問に「協議中」と答えるばかりです。暫定広場は、既存ビル一棟を残し、供用開始は一年遅れの来春予定です。

交通広場とペデデッキ本格工事は来春以降

ペDESTリアンデッキの一部の工事が始まり、本格的な駅前広場の工事は、暫定広場竣工後の来春以降に予定されています。しかし、

A街区の残る一棟の権利者の同意がなければ、交通広場の整備も、区画整理事業も終わりません。

市長は地権者に誠実に向きあえ

地権者の同意を得ることもないままの建物移転・解体の見切り発車が事業を遅らせました。今、必要なことは、最も責任を負うべき立場にある市長自身が、地権者に誠実に向き合い、同意を得るための最大限の努力を尽くことです。

日本共産党は、引き続き、安全・便利な駅前広場の整備、区画整理の早期終息で事業費の膨張回避に全力を尽くします。



狭くて危険な取手駅西口交通広場、安全便利な駅前へ早期整備が待たれます